

平成24年度 管理計画に基づく保全施策の進捗等

- ① 遺産登録後の社会的な変化
- ② 「管理計画」に基づく保全施策の進捗に伴う変化

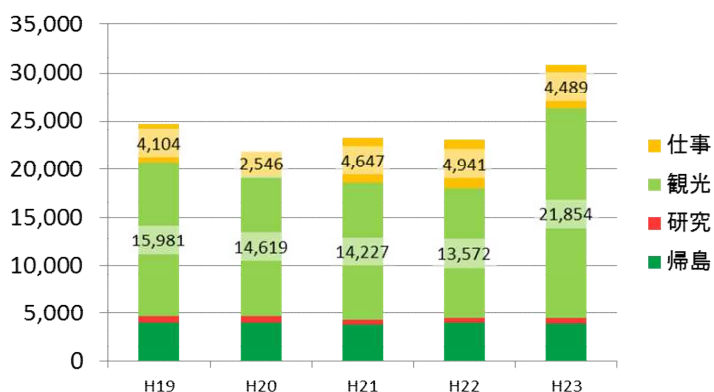


- ・ 新たな外来生物の侵入のリスクは依然として存在する。
- ・ 島内の変化に伴う課題に対し、機敏で順応的に取り組む必要がある。

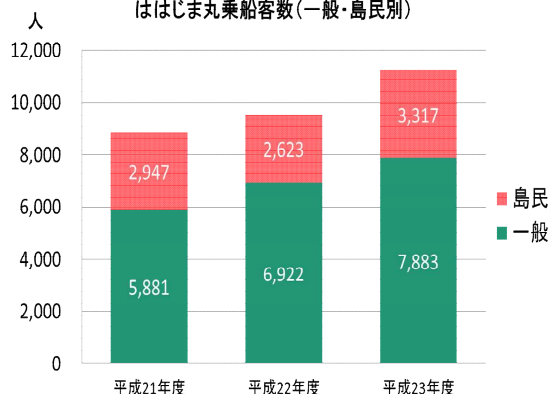
1. 小笠原諸島の状況① (来島者数)

世界遺産登録された平成23年度には、おがさわら丸での来島者数は、過去最高の21,854人（観光目的）を記録しました。研究者・帰島者・仕事での来島者はほぼ横ばいでした。ははしま丸の乗船客数も、一般の利用者が増加しています。

おがさわら丸乗船客数

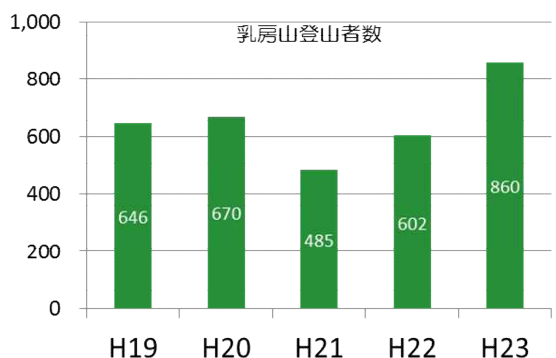
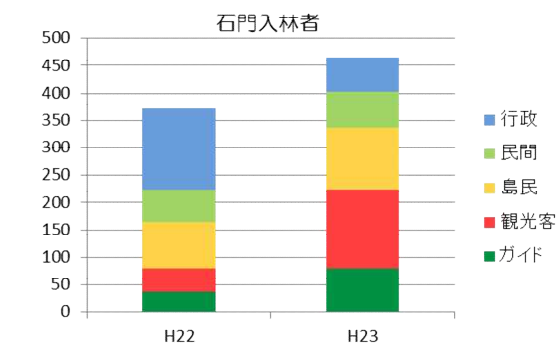
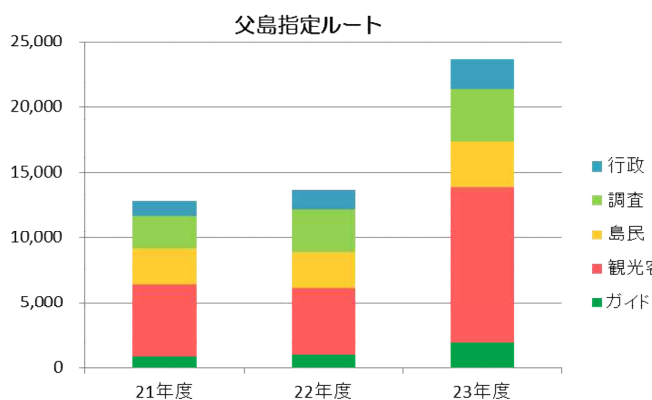


ははしま丸乗船客数(一般・島民別)



1. 小笠原諸島の社会的状況②（入林者数）

遺産登録後、父島の指定ルートでは、入林者の増加が見られます。また、母島の石門・乳房山の登山者数も増えています。



観光客、事業者、調査者とも増加。
ただし、来島者数の絶対数がそもそも多いとはいえないため、その影響がどうなのかは検討が必要。

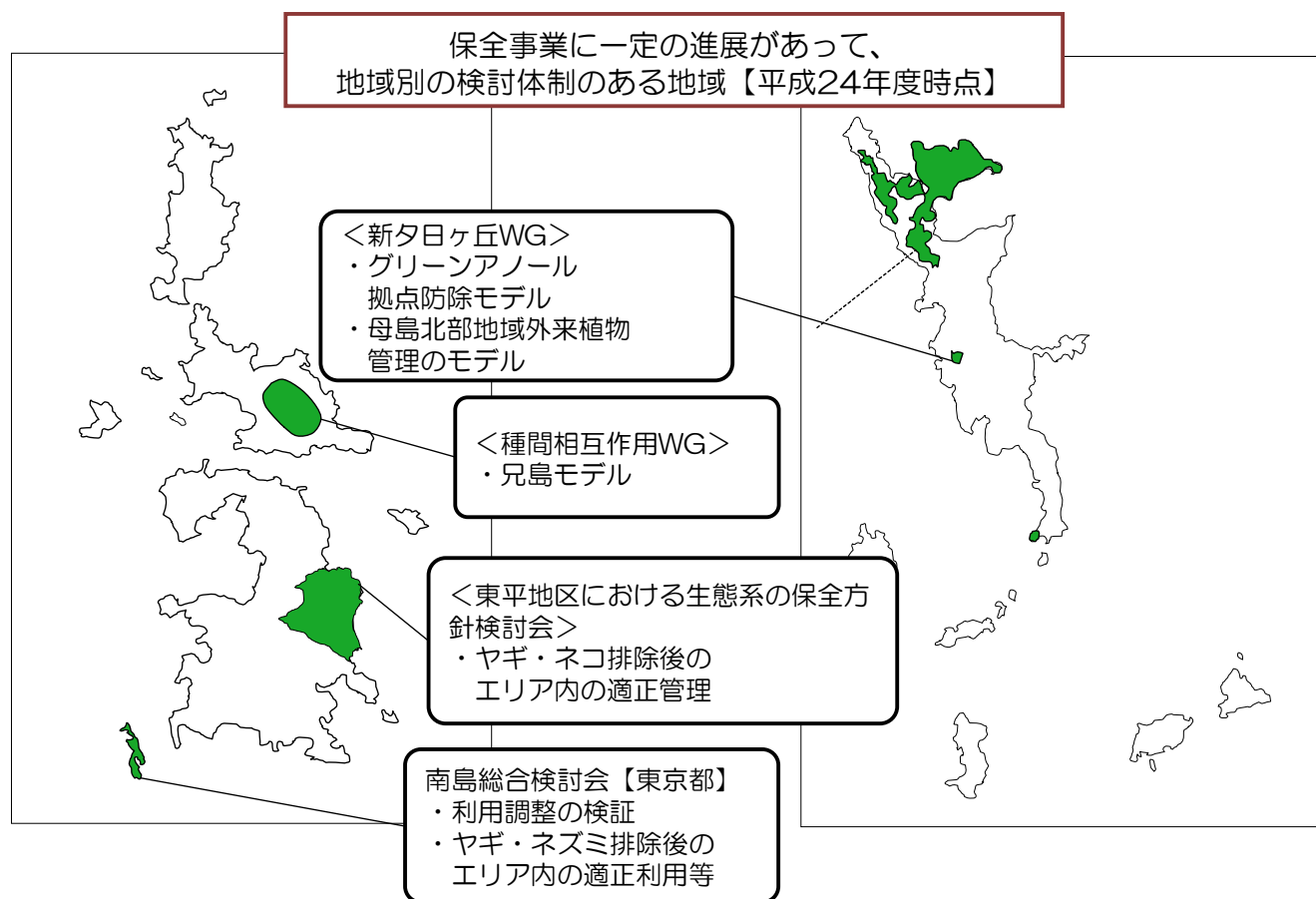
（出典）

父島：林野庁

母島石門：母島観光協会

母島乳房山：登頂証明書発行数

2. 小笠原の生態系の保全施策の進展



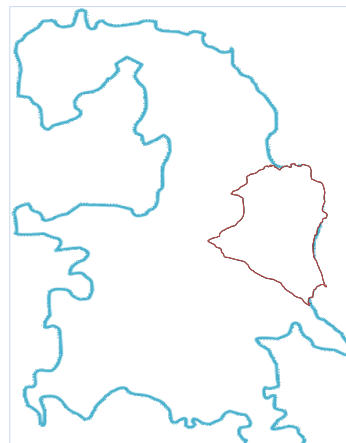
2-① 父島ノヤギ・ノネコ排除（環境省、東京都、小笠原村）

ヤギ・ネコ柵の内部でのヤギ、ネコの排除

- ◆ 父島東平地域のフェンスが完成しました。
- ◆ フェンス内のヤギについては、全頭駆除したと考えられます。
- ◆ フェンス内のネコについては、現在、1頭確認されています。



年度	実施箇所
H21年度	鳥山地域（ネコ柵）
	都道沿い（ネコ柵）
H22年度	東海岸（ヤギ柵）
	ノネコ防除柵（ショートカット）
	初寝ルート（ヤギ柵）
H23年度	初寝ルート（ネコ柵）（完成H24.6）



＜関係する主な検討会＞

東平地区における生態系の保全方針検討会 他

2-② 父島ノヤギ排除（環境省、東京都、小笠原村）

➤ 父島ノヤギ排除状況

小笠原諸島ノヤギ捕獲状況

（単位：頭）

年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	合計
智島列島	136	137	144														281
				79	2												81
				656	265	17	2										940
父島列島						39	2										41
								78	161	87	61						387
												197	98	7			302
														385	689	494	1,568
計	136	137	144	735	267	56	4	78	161	87	61	197	98	392	689	494	3,600

※東京都及び村のわなは2013年2月6日現在

➤ 植生への影響

- ・ 駆除開始から1年程度ですが、一部地域ではノヤギの低密度化により植生変化が見られ、在来植生回復のほか外来植物の侵入拡散が懸念されます。

父島鳥山周辺

・ 草本類の生育変化が著しい

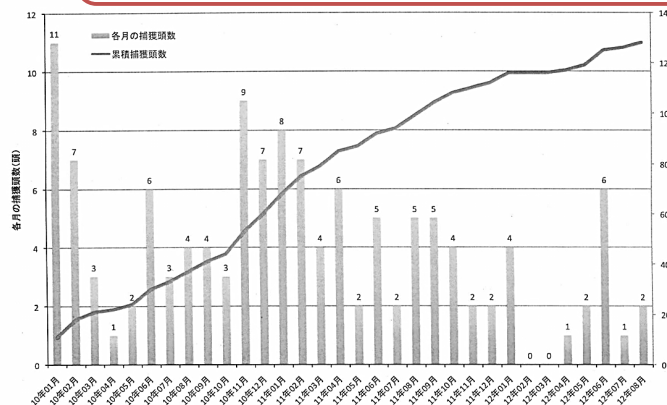


＜関係する主な検討会＞

父島ノヤギ排除検討委員会
父島外来樹木対策検討委員会
他

2-③ ネコ対策（環境省、東京都、小笠原村）

- ◆ 父島の山域でのノネコの捕獲が進み、山域のネコの確認頭数が減っています。
- ◆ 集落近くでのネコの対応も進んでいます。
- ◆ 獣医師会と協力した、派遣診療も実施しています。



獣医師会、小笠原海運、地域の協力なしには進まない

＜関係する主な検討会＞
小笠原ネコに関する連絡会議

◆小笠原動物派遣診療について

「東京都獣医師会の協力」

山域・・・捕獲したノネコの受入

集落・・・「派遣診療」による適正飼養の推進

2-③ ネコ対策（環境省、小笠原村）

アカガシラカラスバトの生息状況が回復傾向。
島内の人里近くで見られるようになった一方で、
ネコとのトラブルや交通事故等が発生した

ネコとのトラブル

8月17日、大神山公園（大村海岸）付近で、ハトがネコに襲われる事案が発生

バードストライク

6月20日、小笠原高校においてバードストライクによる落鳥個体を確認

交通事故

8月31日午前6時頃、扇浦海岸付近の道路上でアカガシラカラスバトが交通事故により死亡

衰弱死

8月21日、扇浦の民家にて衰弱死（原因不明）と見られる落鳥個体を確認

衰弱個体保護

7月20日、北袋沢付近の道路上で衰弱個体を保護

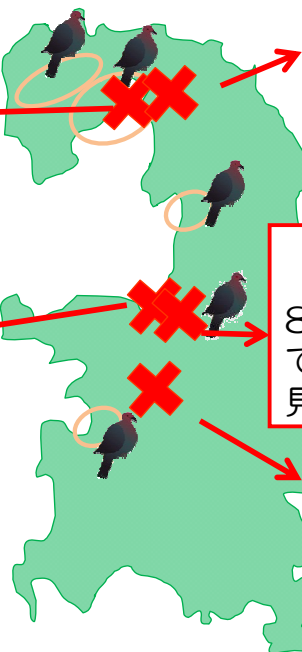
いずれもH24年中の事案



主なハト出現地



H24事故地点

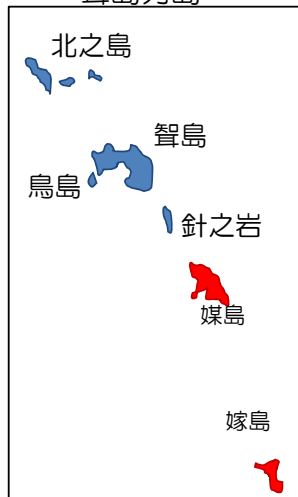


2-④ 属島等におけるクマネズミ対策（環境省）

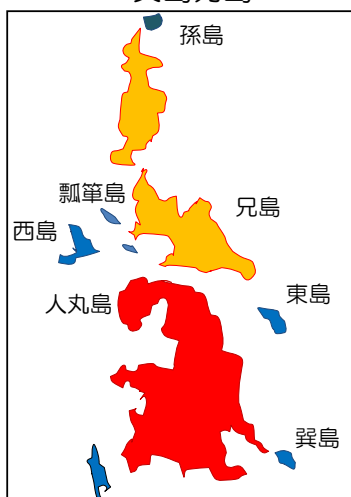
ネズミ類への対応の状況

- ◆ 父島、聟島属島の一部で実施した。
- ◆ 大きな島での根絶技術は未確立。
（兄島、弟島では、根絶に失敗している）
- ◆ 母島属島では未実施。

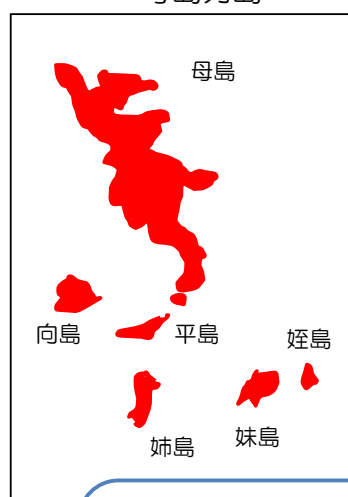
聟島列島



父島列島



母島列島



毒餌の空中散布

- 現在ネズミの生息が確認されていない島
- 現在ネズミが生息している島
- 駆除を実施したが、ネズミが残存している島

＜関係する主な検討会等＞
小笠原諸島における外来ネズミ
類対策検討会

2-⑤ 母島におけるグリーンアノール対策（環境省）

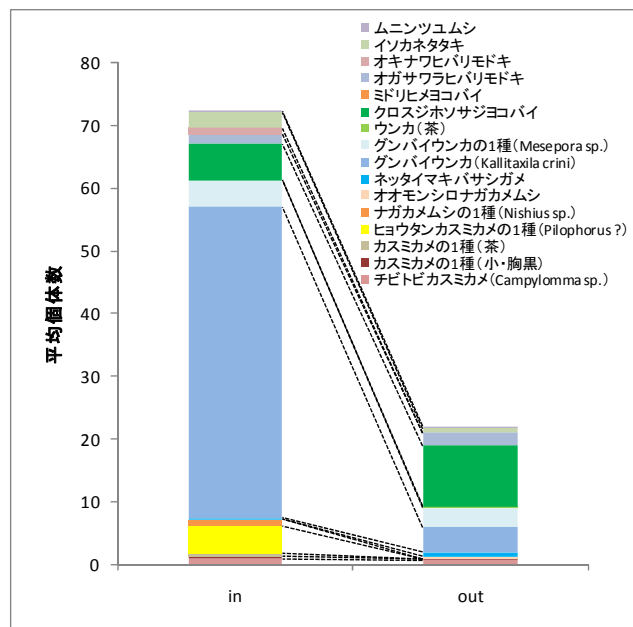
母島のグリーンアノールへの対応の状況

- ◆ 母島新夕日丘でのアノールフェンス内は、ほぼ低密度化を達成した
（拠点排除技術は、一定の成果）。



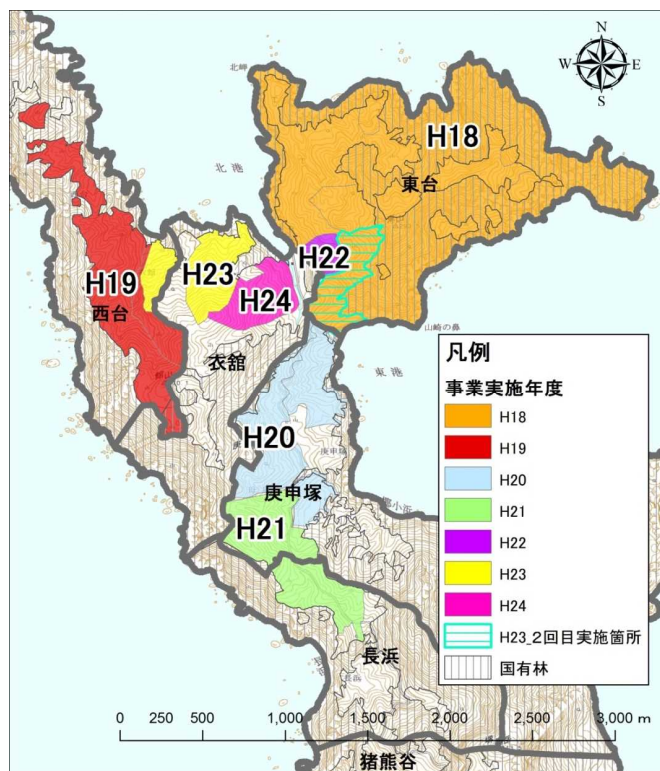
柵の中の昆虫類が回復傾向にある。

＜関係する主な検討会等＞
あたらしい新夕日ヶ丘づくりWG



2-⑥平成24年度 外来植物の駆除事業の実施状況（環境省）

母島（主に北部の民有地）



◆母島北部においては、所有者の承諾のとれた民有地を中心に、アカギの一次処理を行いました。

◆事業実施箇所によって、林相に大きな違いが生じています。

◆母樹の残木、稚樹・幼木の更新の状況に応じた、きめ細かなプログラムが必要であり、アカギの二次処理を行っています。

＜関係する主な検討会等＞
専門家への個別ヒアリング
（＊）検討会は設置せず

2-⑦オガサワラオオコウモリ農作物被害防除対策事業（小笠原村）

○目的

本種に対する安全な防除策提示及び普及事業により本種の防鳥ネット絡まり事故を防止し農作物の保護を推進する。

○平成20年度～平成22年度

本種にとって安全な防除方策の実証試験

硬質樹脂製ネット使用の防除器具及び施設の提示

○平成23年度

硬質樹脂製ネット使用のモデル施設の設置

本種への安全性、農作物の被害防除効果、施設の耐久性の確認

○平成24年度

硬質樹脂製ネット使用の防除器具及び施設の設置
希望者（家庭菜園者を含む栽培者）に対して、設置に要する資材を無償貸与

防除施設資材貸与3件実施見込中、1件実施
防除器具資材貸与2件実施

（平成25年2月28日現在）

施設外観



文化庁及び東京都補助事業

＜関係する主な検討会等＞
現地にて、コウモリに関する連絡会を設置準備中

2-⑧ 外来生物普及啓発事業（各機関）

外来種啓発事業（小笠原村）

◆事業概要

平成13年度より主に南島での外来種駆除作業を村民ボランティア参加のもと行い、外来種の駆除作業を通して、小笠原諸島の特異な自然環境を劣化させず後世に残すため、保存・保護していくという意識啓発を行うと共に、参加する村民ボランティアの自然学習の場とする。

◆3カ年の実績

実施年度	実施日	参加人数
平成22年度	H22.9.15	22名
平成23年度	実績なし	—
平成24年度	H24.7.14	30名

◆駆除作業の様子



各種パンフレットの作成（各機関）

2-⑨ 希少植物にかかる「植栽」の検討について（報告）

- 「小笠原諸島の生態系の保全・管理の方法として「植栽」を計画するにあたっての考え方」（平成23年8月小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 事務局）に沿って、平成23年度から希少植物（種の保存法に基づく国内希少野生動植物種）の「植栽」について検討。
- 昨年度、コバトベラ、タイヨウフウトウカズラ、シマホザキラン、ホシツルラン、ヒメタニワタリの5種について検討。
- 今年度、アサヒエビネ、ムニンノボタン、ウラジロコムラサキ、コヘラナレン、ヒメタニワタリの5種について検討。（ヒメタニワタリは改定）
- 検討にあたっては、「小笠原希少野生植物保護増殖事業「植栽」に関する検討会」（座長：伊藤元己 東京大学教授 ほか3名）を設置。
- 希少植物にかかる「植栽」の検討については、今年度で終了。

	必要性等の整理	植栽方法別の検討結果
 アサヒエビネ	比較的株数は安定しているが、近年、開花数が少なく、自然結実、自然実生も見られない。植栽は、本種の持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽
 ムニンノボタン	一部の個体群において、自然更新による世代交代が確認されておらず、生育状況も悪化している。植栽は、本種の持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽
 ウラジロコムラサキ	父島個体群について、開花株が少なく、自然結実が見られない。植栽は、本種の持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽
 コヘラナレン	自然状態においていい率が非常に高いことが確認されている。植栽は、本種の持続可能な個体群の成立に役立つ。	○自生個体の人工授粉及び自生個体から得られた種子を用いた播種 ×域外増殖種子又は株の植栽